

東日本大震災と事業継続計画（第6報）

国際印刷大学校 木下 堯博

2011年10月上旬、東北地方の印刷・同関連業の支援・調査活動に参加し、7月に調査した福島県印刷工業組合で事業継続計画（BCP）などの討論をおこなった。

このBCPは東日本大震災のような緊急事態の場合、被害を最小限にし、早期に復旧を実現するために、この緊急時に行う方法や手段などを予め準備し、事業継続計画を策定することが必要である。アンケートで東日本大震災の前までにBCPを策定していた企業は7.8%で、印刷企業では6.5%と低下した。特に最低限、必要な項目は事務所や工場との緊急連絡体制、従業員と家族の安全確認である。愛知県印刷工業組合では「あいちBCPモデル」BCP取組み事例集⁽¹⁾制作に協力し、組合員各社の事例が紹介されている。この中ではBCPを策定するためのアイデアやヒントが多数紹介されている。（写真1）

今回の広域の大災害では「被災前の企業活動にいち早く復帰」しても、需要がなければ成り立たず、需要確保の営業管理が大切である。⁽²⁾

このBCPは被害を最小限に食い止める必要があり、日頃の防災対策とセットで対応していく必要がある。オフセット印刷やブリプレスの現場では、それぞれの作業に関する、手順書を作成し、もし仮に欠員ができた場合、その手順書にもとづき、代わりの作業

員が機械・器具の運転が可能となる。また、日頃、ジョブローテーションなどにより、現場の機械・器具は誰でも利用可能な状況に維持管理しておき、緊急時に備えるべきであろう。

2011年5月～6月IT企業600件の調査を行った矢野レポート⁽³⁾によれば、この大震災後、BCPに対する策定意欲は46.7%となった。しかし、その策定に対するハードルは情報不足27.3%、人材不足が26.5%、予算不足が23.8%となり、現実的にはきびしい状況である。情報セキュリティ大学院大学では、この震災におけるBCPの問題点を13項目にわたり、まとめている。BCPの発動に対しては、①指揮命令系統が震災で機能しない、②BCP要員が行方不明、③避難地区のため機能出来ず、④全体像を確認するまで時間がかかり、発動が遅れた。などの結果が紹介された。⁽⁴⁾

いずれにしてもBCPは印刷産業でも重要なアイテムであり、ISMSの取得の場合は必然的にこの項目が含まれ、2012年4月にはISO22301（事業継続）として公開予定である。（2011年10月6日記）

参考文献

- (1) <http://www.quake-learning.pref.aichi.jp/bcp-pdf/jirei.pdf>
- (2) 河田 恵昭；商工ジャーナル（2011年6月号）
- (3) 矢野レポート；最新市場調査レポート（2011年7月5日）
- (4) 情報セキュリティ大学院大学原田研究室；BCPの問題点（2011年5月）

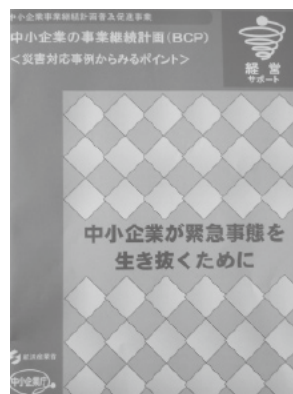


写真1 中小企業庁のHPからも74頁の資料ダウンロード可能

〈デジタル派〉と〈アナログ派〉の不和

(株)工画堂スタジオ名誉会長 谷 欣伍

昭和元年(1926)になる2ヶ月前の誕生だから、まるまる昭和っ子である。B全判のZn板を載せてもなお余る座り机で仕事に励むオヤジの腿にのせられ育てられた。

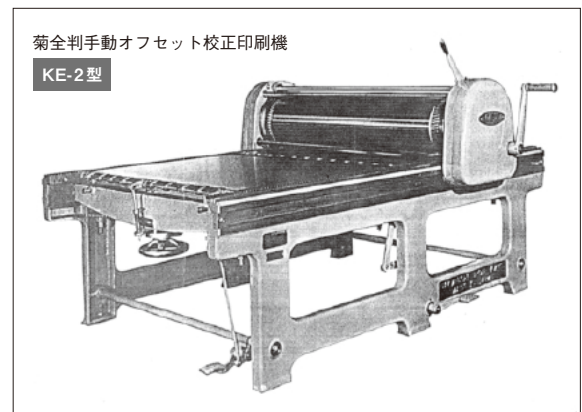
画き版に用いる解き墨や色材・ガソリンなどの臭いを嗅ぎながら過ごしてきた。そしてアッ! という間に85年が過ぎたが、今もなお現役として一筋道を歩んでいる。

美校受験のためベーシックデザインを助教授の先生から直弟子として教えられた理論や技術は、デジタル時代になっても生きている。コンピュータはデザイナーのイメージを画像化する道具であることを知っておきたい。

前半の50年間はアナログ制作に徹していたが1984年に前評判の高かったNECのPC-100とプリンターを買い込み、帰宅するや秘かに機能や効果を楽しんだ。コンピュータで何ができるか知りたかったからで、周囲からは「ホビーだ!」「お遊びだ!」と雑言しきりの時代だった。

1990年に弊社で〈Mac II-ci〉を2台導入した。これまで表現できなかった画像がコマンド操作だけで形成されるから、イメージよりもモニター上に現われる画像を弄んでしまう。〈形を作る〉ことと〈コンピュータを操作する〉の双方に頭脳を割き、“それらしく”できてしまうところが^{おとしあな}“陥穽”となった。

アナログ時代には〈クレヨン〉〈クレパス〉〈水彩えのぐ〉〈ポスターカラー〉〈泥えのぐ〉〈リキテックス〉〈色鉛筆〉〈カラーインク〉など種々の色材が独自のテクスチャを競い合った。カラーインクで天才的な色感を身につけた学生に聞くと、どんな色面にでも“郵便はがき”用紙くらいに薄めたインクを20回以上塗っているという。はじめて彼



〈オフセット印刷の原理が収縮されている〉

女の作品を目にしその『美しさ』にショックを受ける。

デジタル時代に入ると小さなモニターで視た光源色が、機種によって発色が異なる不安定さがあった。入手した画像を数ヶ所のコンピュータで開いたところ、CRT(ディスプレイ)の色彩調整が全部狂っているのには一瞬眼を疑った。これではデザイナーが表現したい色をどうやって伝えるのだろうかと思ってしまう。

“傘寿”を過ぎるとこれまで感じなかった〈モノ〉が見えてきた。車内吊りのポスター、構内や街頭に貼ってある各種媒体あるいは新聞広告を見ても、どこか似かよったところがあるのに気づく。アプリケーションにはそれぞれ特異な〈クセ〉があって、誰がやっても似たような画像になってしまう。独自のキャラクターに気づかず表現された画像を自分が創りだした作品と信じているがコンピュータでは作者の顔が見えてこない。

連絡先 [http. <tk@kogado.com>](http://tk@kogado.com)